

特集

世界天文年公認書籍展示企画

～うちゅうの本500冊～

福江 純（大阪教育大学）、高田裕行（国立天文台天文情報センター）

1. 事前準備（表）

お祭りが終わって一週間、祭りの余韻も醒めかけたころ、安藤享平世界天文年グランドフィナーレ事務局長から、各企画の報告記事を執筆するようにとの最終指令が下った。『天文教育』誌における特集の締め切りは1月末だということだったが、年が明ければすべて忘却するだろうから、その前に、まとめておくことにしたい。

世界天文年に実施されたさまざまな企画の中で、大きな企画の一つが「世界天文年2009公認書籍」の認定と「星空ブックフェア／宙読み（そらよみ）書房」である。世界天文年中の詳しい報告については参考文献[1]を参照していただきたい。

大きな企画であったことから、神戸で開催された世界天文年グランドフィナーレ（以下、GF）においても、「世界天文年2009公認（約500冊）書籍展示企画」（以下、書籍）を実施することは、当初より予定されていた。福江が世話人LOCに正式に加わりGFや書籍を手伝うことが決まったのは9月末だが、そのころにはすでに、高田の方では、

- ・公認書籍の一挙展示
- ・連動してトークやサイン会
- ・書籍の販売も可能

などの企画内容を考えており、新たに福江が追加したアイデアは、

- ・質問コーナーの常設
- である。

高田と福江が連絡を取れたのが10月中旬だったが、古い古い旧知の間柄だったので、

代表高田（コードネーム矢ぶすま）・副代表福江（コードネーム提督）という役割分担で、その後はスムーズにやりとりが進んだ。また、たまたま福江が10月下旬に国立天文台に出張があったので、福江・高田・小野智子さんの三者で、書籍を含め、少し突っ込んだ相談を行った。



世界天文年2009「星空ブックフェア」紹介

「宙読み（そらよみ）書房」へようこそ！

高田裕行（国立天文台天文情報センター出版係／世界天文年2009企画委員）

●概要

世界天文年2009の国内主催イベントのひとつが「星空ブックフェア2009」です。これは、全国の書店に世界天文年の専門コーナーを設けていただき、良質な天文書籍を读者に提供することを目的とした企画で、全国の推定約1000店舗で開催されました。また、フェアの進行とともに、商業出版の枠を超えて、全国の公共図書館や学校図書館、さらに図書館関係の各種団体や、出版・図書館関係者・民間有志で活動する科学書籍の研究会など、さまざまな方面からの利用参加や情報交換も相次ぎ、天文・宇宙の書籍を通じて、広く出版界・図書館界・教育界と連携を図るきっかけを作ることができました。

●星空ブックフェアの目的

星空ブックフェアは、運営陣一（国立天文台天文情報センター長、高田裕行（国立天文台天文情報センター出版係））が担当しました。当フェアの新しい試みと狙いは、著者や出版社からフェア参加希望書籍を申請していただき、良質な天文書籍を世界天文年日本委員会が必要に応じて日本天文学会（教育委員会）の助言を得て公認することで、读者や書店に対して一定の良書情報を提供するとともに、各書籍に共通のロゴマークや書籍帯を掲示してフェアの一体感と盛り上げを図り、全国の書店の天文・宇宙の棚を活性化するための“呼び水”となることを目指すものでした。



図1 公認書籍報告ポスター（一部）

1.1 事前準備：書籍展示

当初は、GF初日も2日目も書籍展示をする予定だったが、初日が天文年関係者主体になったことと、初日会場から2日目会場へ500冊の本を運ぶのが難しいことなどから、

最終的には、書籍の実物自体は2日目に展示することになった。ただし、世界天文年で行ったメインの企画だということで、初日にもポスターを作成して「星空ブックフェア／宙読み（そらよみ）書房」の報告は行うことにした。展示ポスターは、開催前日に（笑）、高田が作成印刷して、会場へ持参した（図1）。

1.2 事前準備：書籍出張販売

時系列的にはこいつが一番早くに動いたのだが、福江と高田が繋がった翌日、10月15日（月）に関西で書店ならジュンク堂書店だろうと思ひ、フライング的に福江が本店や三宮店に連絡を取った。

実はブックフェアは流通のトーハンを通じて行っており、ジュンク堂書店はトーハンのメインの取引先ではない、ということになって知った。そこらへんの経緯を全部書き出すと10頁ぐらいになるところを10行にまとめると、高田 vs トーハン、福江 vs ジュンク堂書店という対応で、1か月ぐらい調整調整作業を行った結果、

トーハン神戸+ジュンク堂書店三宮店の両者にご協力願えることになった。その後、11月16日（月）にGFの第2回現地打ち合わせがあった際、三宮店で、トーハン神戸の担当者×三宮店理工書コーナーの責任者×福江の三者鼎談が実施され、出張販売の細かい打ち合わせが行われた。

なお、この書籍出張販売のお願いついでに、兵庫・大阪・京都などに約20店舗あるジュンク堂書店で、GFを宣伝するポスターを店頭貼ってもらうことにした（図2）。ただ、三宮店で貼られたポスターを見た感じでは、他にもいろいろポスターがある中であまり目立たなく、実際に集客効果があったかどうかは疑わしい。

1.3 事前準備：トーク&サイン会

図2 書店店頭用ポスター

書籍販売ならサイン会だろうということで、ゲストとして、高田も福江もまず第一に呼びたかったのは天体写真家の藤井旭さんであった。高田が速攻連絡を取ったのだが、残念ながらGFの時期には海外とのことで、これは実現できなかった。一方、同じく呼びたかったデジタルファインアーティストのKAGAYAさんは、高田の伝手で来ていただけることになった。また大物としては、初日のエッセイ賞審査員である作家の小川洋子さんが、西宮在住で天文も好きだという関係で、サイン会に来ていただけることになった。谷口義明愛媛大学教授にもサイン会に来てもらう依頼をしたが、こいつもちよっと大物なので（笑）、別企画のトークショーへ出てもらうことにした。

それ以外は、会場におられる公認書籍の著者の方をお願いした。

1.4 事前準備：質問コーナー

ここは事前準備はほとんどなくて、福江が演示用パソコンと延長ケーブルをバッグに折り込み、学生 D にプロジェクタ運搬を依頼したぐらいである。

その他の事前準備（表）としては、書籍展示や質問コーナーなどの案内表示を、色模造紙で作成したぐらいだろうか（図 3）。



図 3 案内表示



図 4 報告ポスターを貼ったところ

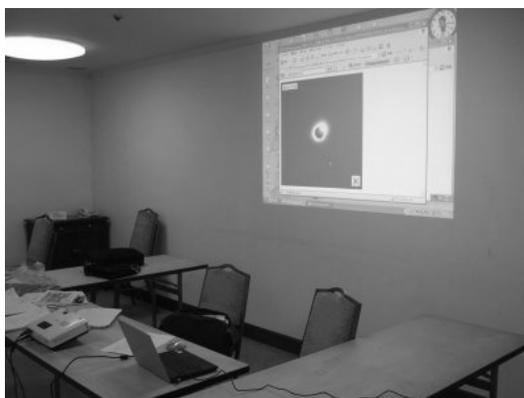


図 5 反対の壁面に 7 月にあった日食の投影をしていた。

2. グランドフィナーレ初日：報告会

さて、まず兵庫県公館で行われた GF 初日（12 月 5 日）には、公館辺境の地 101 号室で、「世界天文年 2009 公認書籍報告会」を開催した（図 4、図 5）。

当日は、高田は記録係に狩り出されたので、福江が店番をしていた。しかし、101 号室は暖房も効いていなくて、まさに辺境という感じで、プロジェクタから出てくる熱気で暖を取っていた（まじで）。また、公式式典が始まると、この部屋は予想通りにヒマなので、エッセイ賞受賞作品の資料をホッチキスで留めたり、しばらく家内制手工業をしていた。

この 101 号室の正規の開場は昼からだ、何かあればと思い、一応午前中から開けていたが、やっぱり何もないので、ホームページを書いたりしていると、そのうち、チラホラとお客さんも来室され、続けて、エッセイ賞

の受賞者らも立ち寄られた。また午後にも休憩時間などを中心に来室者があり、きちんと数えてはいないが、トータルで、2,30 人の来室があったように思う。

3. グランドフィナーレ 2 日目：展示 & 物販

兵庫県中央労働センターで行われた GF 2 日目（12 月 6 日）には、2 階ロビーにおいて「世界天文年 2009 公認書籍展示」を実施し、同じ場所に「質問コーナー」を常設した。また 2 階 202 号室で「天文書籍出張販売」（午後からロビーへ移動）と「KAGAYA グッズ物販」そして「トーク & サイン会」（こちらも午後はロビーへ移動）を実施した。

3.1 書籍展示～うちゅうの本 500 冊！

ロビーで 500 冊もの本をどのように展示するかについては、窓際にソファがあったことなども念頭において、事前に入念な設計を行い、50 通り（ウソ）ぐらいのシミュレーションをして、最終的には、長机でロビーを半分仕切って袋小路にして、その内部で書籍の展示をした（図 6、図 7）。

公認書籍展示は、ロビーという地の利もあり、おおむね一日中、人が入っていた（図 8）。

また公認書籍展示のそばに質問コーナーを常設した（図 9）。本来の予定では、質問コーナーには学生が一人ほど常駐し、福江が半分くらいは駐在の予定だったけど、愛知教育大



図 8 公認書籍の展示コーナー



図 6 ポスターで化粧した城塞外壁



図 7 書籍を並べた城塞内部



図 9 質問コーナー@ロビー

右奥が澤さん。他は学生 C、D とアリスおよびバーバラ。

学の澤武文さんが何となく座ってくれたので、高田と福江は駐在せずにあちこち動くことができた。

3.2 天文書籍出張販売 & KAGAYA グッズ販売

また、2 階の外れにある 202 号室では、天文書籍の出張販売と KAGAYA グッズの販売を実施した（図 10）。ただし、不安したとおり、202 号室は動線が悪く、午前中は客足がかなり悪い。コアなファンがいる KAGAYA グッズはともかく、書店へのお客はなかったようだ。そこで黒田武彦 GF 実行委員長と相談し、書籍の出張販売のみ、午後から急遽、



図 10 KAGAYA グッズを展開中



図 11 午後からの書籍販売@ロビー

ロビーへ移動することにした (図 11)。

移動の効果などもあり、最終的に聞いたところでは、書籍出張販売では、小川さんの本が 40 冊ぐらい、それ以外の天文本が 50 冊ぐらい、合わせて 90 冊ほど売れたらしい。

KAGAYA グッズの方は尋ねていないが、後述するサイン会などの様子を見ても、KAGAYA ブランドの集客効果はかなり高く、わざわざ物販をしてもらった甲斐はあったのではないと思う。

3.3 トーク&サイン会

また、折角の機会なので、公認書籍の著者

と話したりサインをもらったりしようということで、202 号室の前室でトーク&サイン会を実施した (図 12)。実際には、特別ゲスト (福江)、国立天文台の縣さん、KAGAYA さんは 202 号室で実施し、童話作家の寮さん、作家の小川さん、京都大学の嶺重さんはロビーで実施した。

202号室 サイン会

うちゅうの本 販売
KAGAYAグッズ販売

10:00 特別ゲスト

11:00 縣 秀彦さん

(国立天文台)

12:00 寮美千子さん

(童話作家)

13:00 KAGAYAさん

(デジタルファイン
アーティスト)

14:00 小川洋子さん

(作家)

15:00 嶺重 慎さん

(京都大学教授)

★各回 先着10名様ティーサービス★
KAGAYAさんのサイン会は整理券方式です



図 12 書籍連動のトーク&サイン会

さて蓋を開けてみると、天文関係者のサイン会は、見事に外れた (図 13)。サイン会の会場では、縣さんは 3 冊ほど売れたらしいけど、10 時からの福江はぜんぜんダメだったし、嶺重さんもぜんぜん売れなかったんじゃないかなあ。何かの即売会で 60 冊が売れたと豪語していた谷口さんでさえ、トークショーの後のサイン会では 3 冊ぐらいだったらしい。

一方、午後 1 時からの KAGAYA さんのサイン会は、動線が悪い 202 号室前室で行ったが、こちらは大盛況だった (図 14)。ときどきチラチラ覗いたぐらいだが、おそらく 1 時間ぐらいの間に 60 人ぐらいはあったんじや

なかろうか。図 13 と図 14 が同じ部屋だとは思えない（笑）。



図 13 サイン中の縣さん



図 14 KAGAYA さんのサイン会



図 15 小川さんのサイン会

また午後 2 時から的小川洋子さんのサイン会は、ロビーで実施したが、こちらも行列ができた（図 15）。

4. 戦後処理

GF も終わってみればあつと言う間だったが、GF と世界天文年は終わっても、天文の世界はさらに続いていく。世界天文年 2009 を契機にはじまったイベントやプロジェクトの中にも、2010 年以降も引き続き実施されていくものも少なくないだろう。書籍関係でも「宙読み（そらよみ）書房」は今後も継続していく予定である。いろいろなご意見をお寄せいただければありがたいし、またいろいろご協力願うこともあるかもしれない。今後ともよろしくお願ひしたい。

謝辞：書籍展示については、本文中に名前を挙げた方々を中心に多くの方々にお世話になった。この場を借りて関係者のみなさんに感謝したい。

追記：1 節のタイトルに“事前準備（表）”とあるのは、特殊部隊アリス&バーバラの活躍など裏版も同時に書こうと思ったためだが、表版だけで力尽きたので、裏版については Web サイト[2]を参照していただきたい。

文 献

- [1] 高田裕行（2010）天文月報，103(1)：61
 [2] <http://quasar.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/~fukue/>

福江 純（大阪教育大学）

高田裕行（国立天文台天文情報センター）